

時 言 録

「共済と保険」臨時増刊

社団法人
共済保険研究会

目次

一九八〇（昭和五五）年	虎の残した皮を大切にしよう（〃）……………	（五）
	殺人、自殺（時言）……………	（六）
	保険は「営利」でなぜ悪い？（時言）……………	（八）
	「回答以後」に何がくる（時言）……………	（一〇）
	個人年金論議をめぐる（巻）……………	（一三）
一九八一（昭和五六）年	協同組合理念と共済運動（巻）……………	（一八）
	「営利対非営利」の意味するもの（巻）……………	（一九）
	一〇周年の東交協（時言）……………	（二三）
	保険は共済を「保険」だと言ひ共済は	
	「共済は共済」だと言うが（巻）……………	（二三）
	「共済からの逸脱」について（時言）……………	（二四）
一九八二（昭和五七）年		
青谷先生に教えを乞う（時言）……………		（三〇）
共済は無政府的か（時言）……………		（三四）
円案の高齡化社会「論」（時言）……………		（三七）
一九八三（昭和五八）年		
	協同組合が共済をやるのは？（巻）……………	（四〇）
	ひどくなる矛盾（時言）……………	（四二）
	重ねて共済の理論武装を提言する（巻）……………	（四六）
	歴史は三度くり返されるか（時言）……………	（四七）
一九八四（昭和五九）年		
	保険批判はやめてしまつてよいか（巻）……………	（五〇）
	共済は「払える」だけでよいか（巻）……………	（五一）
	自由化すると（保険会社は）つぶれるか（時言）……………	（五三）
	保険論とは別棟の共済論を待望する（巻）……………	（五八）
一九八五（昭和六〇）年		
	「説」は客観的にうけとめよう（時言）……………	（五八）
	歴史をふまえて考えよう（巻）……………	（六一）
	一つの道標を念願して（巻）……………	（六三）
	共済にとつていま一番大事なこと（巻）……………	（六五）
	協同組合における「異質」の共済と契約者保護	
	（巻）……………	（六六）

相互会社の生命保険と協同組合の共済(巻) …… (六)

一九八六(昭和六一)年

宮城さんが逝ってもう一年(時言) …… (七〇)
 「保管場所」と「生活の空間」(時言) …… (七二)
 老後安心共済(時言) …… (七四)
 共済は「保険化」してやがて「保険会社」
 になるか(巻) …… (七六)
 「共済らしさ」の發揮は共済の「いのち」であ
 る(巻) …… (七八)

一九八七(昭和六二)年

橋本報告を聞いて(巻) …… (八〇)
 協同組合保険の正念場・序章(巻) …… (八二)
 二一世紀の共済事業(講演) …… (八三)

一九八八(昭和六三)年

積立保険料は損保の担保力たりうるか(時言) (八五)
 生命保険と再保険(時言) …… (八七)
 共済はつねに保険に劣らず伸び続けねばならな
 いか(巻) …… (八九)
 「営利保険」を考える(時言) …… (九一)

誰がために鐘は鳴る?(時言) …… (一〇二)

一九八九(平成元)年

いま、共済は困っている(時言) …… (一〇三)
 共済対共済の競合問題は大所高所から考えよう
 (巻) …… (一〇五)
 共済と契約者保護(時言) …… (一〇七)
 八〇年代から九〇年代へ(巻) …… (一〇九)
 あとがき …… (一一一)

* () 巻は巻頭言、(時言)は時言月評の略